

1. 科目名（単位数）	造形芸術Ⅰ（2単位）	3. 科目番号	SJMP1321
2. 授業担当教員	片岡浩		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	表現の基本は「みる、かぐ、あじわう、きく、ふれる」という人間の本来持っている五感を活用して感じ、感じ取り、「扱う素材・材料の特性」を最大限に活かしながら表現し伝えることです。この表現の基本を踏まえながら「こころと身体」を開放し独自の表現をおこなえた時、表現者は自己肯定感に満たされ幸福感を実感することが出来ます。これこそが「美術の力」であり存在意義であると言えます。皆さんには是非この表現活動の魅力を体験的に身に付けて欲しいと思います。		
8. 学習目標	1. 技術的な「上手・下手」にとらわれず、ものづくりの楽しさや表現の喜び、感動を実感として得る。 2. 五感で感じ取り表現する体験をとおして独自の表現の力を養う。 3. 素材の特性を活かした造形表現能力を養う。 4. 感性と表現、五感と素材表現、プレゼンテーション、コミュニケーション能力を養う。		
9. アサシメント （宿題）及びレポート課題	1. 課題作品提出 2. プレゼンテーションおよび資料（写真）の提出		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】（購入の必要はない） 適宜資料を配布します。作品制作のための道具、材料は事前に指示しますので各自で用意してください。		
11. 成績評価の規準と 評定の方法	○成績評価の規準 1. 造形活動にどのように向き合い取り組んだかという点を評価する。 2. 作品への取り組み方による評価を行う。 ○評定の方法 授業への取り組み、制作や鑑賞活動の成果、レポート等を総合して評価する。 1. 授業への積極的参加		

第6回	五感をつかった表現 2 「りんごの世界」 色彩による感覚表現 【必要な道具】筆、絵具、のり	事前学習	五感で感じ経験した様々な情報を「色」を使ってクロッキー帳に自由に表現する
		事後学習	①スクラッチ技法について調べる ②異なるモチーフを用いて授業と同様の表現に取り組み、課題の技法と表現について理解する
第7回	五感をつかった表現 3 「りんごの世界」 触覚による造形表現 【必要な道具】新聞紙、のり まとめ（りんごの仕上げ・サイン）と撮影会	事前学習	五感で感じ経験した様々な情報を「色」を使ってクロッキー帳に自由に表現する
		事後学習	異なるモチーフを用いて授業と同様の表現に取り組み、課題の技法と表現について理解する
第8回	視点を変えた立体表現 1 アルミホイルとティッシュをつかった立体造形 「ルビンの壺～ネガポジ視点でかたちをつくる工夫」 「骨格を意識する」 ・竹串骨格（テープ止め） ・アルミホイルで補強 【必要な道具】アルミホイル、ティッシュ、竹串、水彩絵の具	事前学習	白抜き描法でモチーフを意識的に観察する
		事後学習	「作品」に対する意識を高め、造詣を深め、興味・関心・創作意欲を養う為に、ジュンク堂や図書館などで美術・芸術の情報に触れたり、銀座のギャラリー巡りを体験する（研究室前に展覧会情報が掲示してあります※ギャラリーは基本的には入場無料ですのでマナーを守って鑑賞しましょう）
第9回	視点を変えた立体表現 2 アルミホイルとティッシュをつかった立体造形 「ネガポジ視点でかたちをつくる」 「オリジナル動物の作成」 【必要な道具】水彩絵の具、粘土 ・ティッシュで肉付け→着色 鑑賞会（各作品にコメントを書く）と撮影会	事前学習	ネガポジ視点でモノを観察する練習を行う 五感をとした実体験において、今までで印象に残っていることをクロッキー帳に絵や文章等で自由に表現する
		事後学習	プロポーションやムーブメントを把握する能力を養う為、今回の課題で体験的に学んだことを参考に、意識的にカタチを捉え、その見方を学ぶ 様々なモチーフを授業と同様に、五感で体験し、クロッキー帳に自由に表現し描く
第10回	視点を変えた立体表現 3 （※3回、4回まで延長する場合あり） アルミホイルとティッシュをつかった立体造形 アルミホイルで補強、ティッシュで肉付け、着色 「ネガポジ視点でかたちをつくる」 「オリジナル動物の作成」 【必要な道具】水彩絵の具、粘土 鑑賞会（各作品にコメントを書く）と撮影会	事前学習	作品表現に関わるコンセプト・プレゼンテーションの意味について考察し、「作品テーマ」を詩や言葉で表現する
		事後学習	素材表現の可能性について試行錯誤し探求する※納得がいくまで実習室での時間外制作に取り組んでも構わない
第11回	視点を変えた立体表現 4 造形基礎 1 誰にでもできるデッサンのコツを学ぶ 画用紙をパネルに貼る	事前学習	作品表現に関わるコンセプト・プレゼンテーションの意味について考察し、「作品テーマ」を詩や言葉で表現する
		事後学習	素材表現の可能性について試行錯誤し探求する※納得がいくまで実習室での時間外制作に取り組んでも構わない
第12回	造形基礎 2 誰にでもできるデッサンのコツを学ぶ 「手の表現～鉛筆の削り方・持ち方・カタチを捉える～」	事前学習	モチーフを選び様々な画材の「色」を使ってクロッキー帳に自由に表現する。
		事後学習	異なるモチーフを用いて授業と同様の表現に取り組み、課題の技法と表現（鉛筆による表現、絵具の混色）について理解する。
第13回	造形基礎 3 誰にでもできるデッサンのコツを学ぶ 「カタチを捉える」	事前学習	五感で感じ経験した様々な情報を画材の「色」を使ってクロッキー帳に自由に表現する。
		事後学習	異なるモチーフを用いて授業と同様の表現に取り組み、課題の技法と表現（水彩絵の具による表現、ネガ・ポジ視点）について理解する。
第14回	造形基礎 4 誰にでもできるデッサンのコツを学ぶ 「手の表現～様々な種類の鉛筆を使いグラデーション表現を試みる～」	事前学習	「本物そっくりに上手にかく」ことにどのような意味があるのか、自分の経験も振り返りながら考察し、まとめる。
		事後学習	①各段階における作業目標を意識しながら取り組み身に付けていく。 ②自分の経験値だけに頼った「わかったつもり」の作業をしない。
第15回	造形基礎 5 誰にでもできるデッサンのコツを学ぶ 「手の表現～かたちの見方・捉え方～」 「細部の表現」	事前学習	現段階における作業到達点（技法と安全への配慮、カタチの見方・捉え方）を意識し理解し身に付けること。
		事後学習	現段階における作業到達点（グラデーション表現のコツ、カタチの見方・捉え方）を意識し理解し身に付けること。